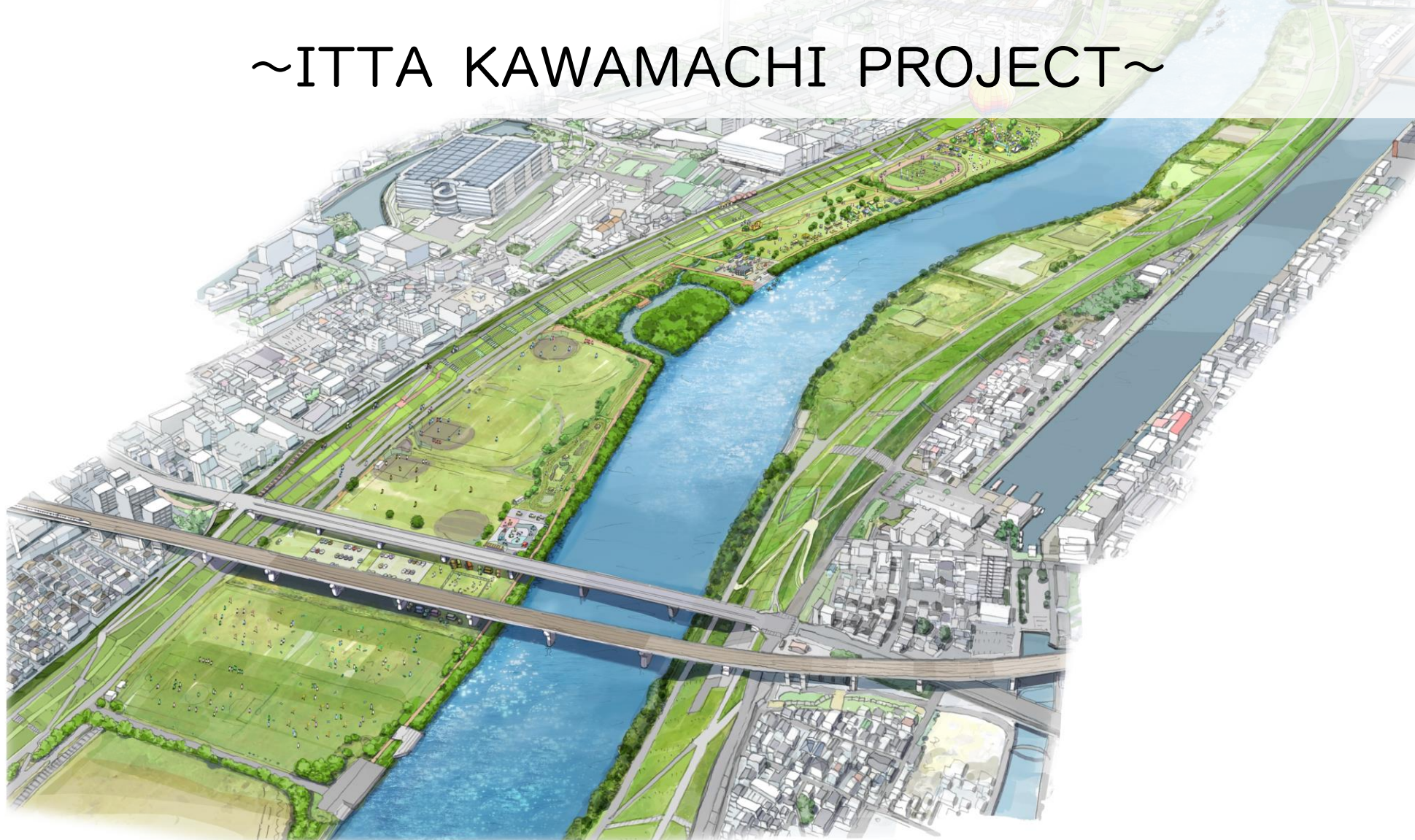


板橋区かわまちづくり基本計画

~ITTA KAWAMACHI PROJECT~



第1章 板橋区のかわまちづくりのこれまでと河川敷の特徴

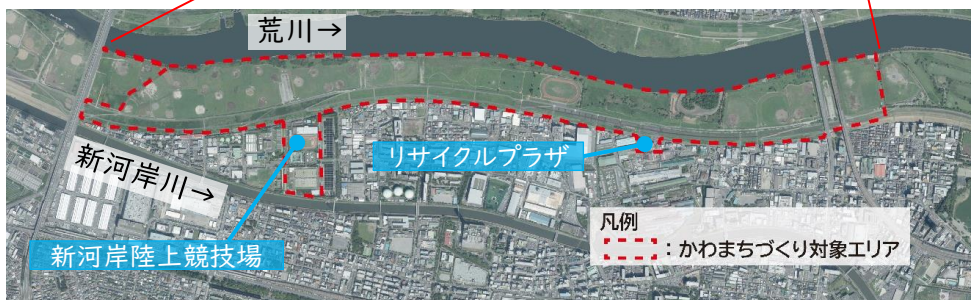
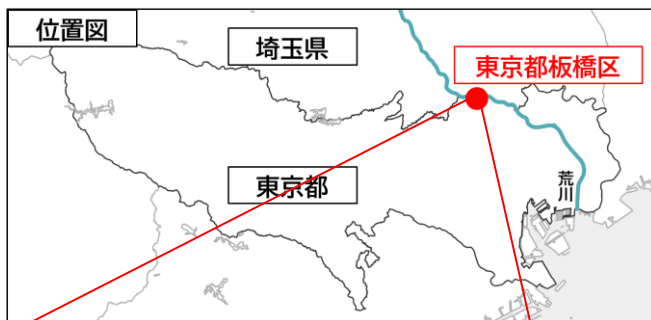


第1章 板橋区のかまちづくりのこれまでと河川敷の特徴

区民に愛され誇りとなる、にぎわいあふれる水辺空間の形成に向けて。



かわまちづくり計画登録証



かわまちづくり対象エリア

区は、舟渡・新河岸地区の水害対策を目的とした連絡通路の整備をきっかけに、かわまちづくりをスタートしました。防災の視点が特徴で、令和3(2021)年8月に国土交通省のかまちづくり支援制度の登録を受けています。

令和6(2024)年1月29日には、にぎわい創出に向けた取組のさらなる充実をめざし、かわまちづくりの取組の基本方針を示す「板橋区かわまちづくり基本構想『ITTA KAWAMACHI PROJECT』」(以下「基本構想」)を発表しました。

基本構想の具体化等に向けて、この度「板橋区かわまちづくり基本計画」を策定し、基本的な考え方などを示していきます。

対象エリアは、荒川の板橋区区間(右岸24.8km~28.6km周辺)とし、まち側に立地する区立施設「リサイクルプラザ」及び「新河岸陸上競技場」も含めます。

“河川空間とまち空間との連携”に向けた河川敷とその周辺エリア。



リサイクルプラザ



荒川戸田橋陸上競技場



荒川生物生態園



荒川戸田橋野球場



板橋Cityマラソン



親子たこあげ大会



ITaFES



いたばし花火大会

荒川は極度に都市化された板橋区内に残された貴重な空間であり、様々な役割を担っています。地域に根付いた荒川にて、「かわまちづくり」に取り組むにあたっては、区の地域資源を活かした展開としていきます。

周辺には荒川戸田橋野球場をはじめとした体育施設や自然環境を活かした荒川生物生態園などの河川敷内の施設やリサイクルプラザや熱帯環境植物館などまち側の施設があります。

また、板橋4大イベントにもなっている「板橋Cityマラソン」や「いたばし花火大会」など、大規模なイベントが開催されています。

“河川空間とまち空間との連携”に向けた河川敷とその周辺エリア。



板橋緊急用船着場



ものづくりの板橋



高島平のまちづくり
「高島平ポットラック」



高島平のまちづくり
「#平暮らしキャラバン」



高島平緑地「りよくちであそぼう！」
みんなでファームづくり



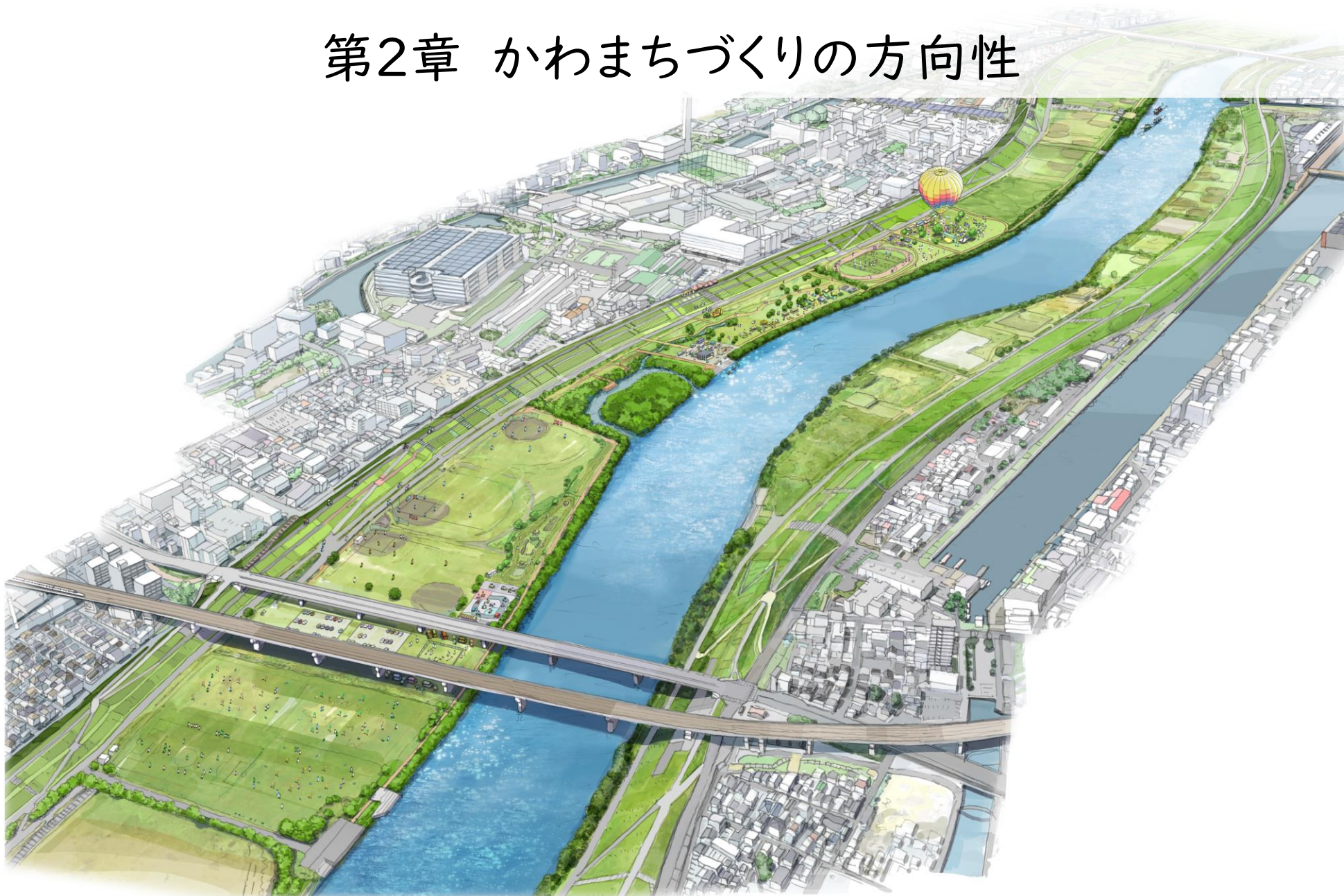
高島平緑地「りよくちであそぼう！」

河川管理施設として、「緊急用河川敷道路」、「緊急用船着場」が設置されており、大規模震災時における防災拠点として重要な役割を担っています。また、工作物を設置する際には、台風等による大量の雨による洪水時に備えて、河川の安全性等に影響を与えないよう、撤去できるようにしておく必要があります。

舟渡・新河岸エリア地区は、都内でも数少ない「工業専用地域」として指定されています。また、高島平地域では、高島平駅を中心とする交流核エリアで都市再生の第一歩をスタートしていきます。

河川の特徴、制限事項やまち側との連携を踏まえ、かわまちづくりに取り組んでいくことが大切です。

第2章 かわまちづくりの方向性



第2章 かわまちづくりの課題と方向性

かわまちづくりの基本的な考え方

にぎわいと防災の2つを軸に、自然豊かな空間を整え、荒川河川敷の魅力及び機能向上をめざし、主要な5つの課題を解決するため、「5つの視点」を設け、整備や取組を推進します。

課題①

体育施設利用者を中心としたスポーツ利用が多くなっているため、新たな利用者層を獲得するとともに、広大なオープンスペースを活用し、河川空間を訪れる人々を増やしていく必要があります。

視点1：区のブランドとなる充実したコンテンツの創出

新たな利用者層を獲得し、河川空間を訪れる人々を増やしていくため、区のブランドとなる充実したコンテンツを創出します。

視点1の方向性

- にぎわいの核となる拠点等の整備に取り組みます。
- 荒川河川敷への新たな利用者誘致に取り組みます。



課題②

トイレ機能の改善や休憩所・日よけ等設置による暑さ対策など、既存機能の充実や、特徴であるみどりに恵まれた荒川河川敷の自然環境の維持・充実を図っていく必要があります。

視点2：既存機能の充実

体育施設等をはじめとした河川空間利用者の利便性向上、みどりに恵まれた河川環境を活かすため、既存機能の充実を図ります。

視点2の方向性

- 既存施設等の充実により、利用者の利便性向上を図ります。
- 特徴であるみどりや水辺空間の利活用を促進します。



第2章 かわまちづくりの課題と方向性

課題③

新たな利用者獲得や既存機能の充実を図っていくには、行政の取組促進や工夫とともに民間事業者のノウハウや資金等を活用し、インパクトのある事業展開や安定した運営を進める必要があります。

視点3: 公民連携の推進

インパクトのある事業展開や安定した運営を行うため、事業手法を工夫するとともに、民間事業者のノウハウ等の活用により公民連携を推進します。

視点3の方向性

- 事業手法を工夫し、新たな民間活力の導入をめざします。
- 関係指定管理者と連携を図り、機能向上に取り組めます。



課題④

震災時における避難場所や、水害対策として高台まちづくり等の取組などが進んでいる一方で、気候変動等による激甚災害が増加していることなどから、より一層の防災機能の充実を図る必要があります。

視点4: 防災機能の充実

震災時における支援物資等の拠点としての役割や水害対策である高台まちづくりのさらなる推進に向け、防災機能の充実を図ります。

視点4の方向性

- 国との連携を強化し、防災機能活用を推進します。
- 高台まちづくりによる水防災の取組を促進します。



第2章 かわまちづくりの課題と方向性

5つの視点の考え方

視点1から3については「にぎわいのバージョンアップ」として河川敷内やにぎわい創出に関する整備や取組の充実を図ります。
視点4、5については「防災」、「『まち』側との連携」により、波及効果を狙います。

課題⑤

河川敷までの交通アクセス改善や高島平まちづくりの展開を踏まえるなど、周辺エリアと連携し、課題解決とともに特徴を活かした将来的なまちづくりに貢献する取組を進めていく必要があります。

視点5:まちづくりとの連携

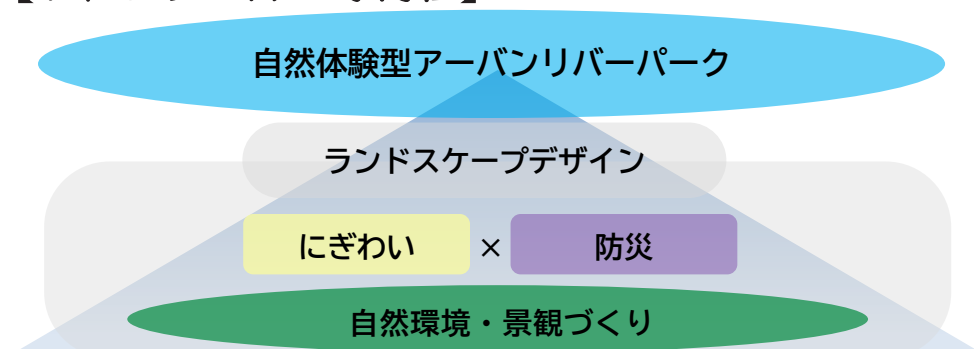
かわ側とまち側のつながりにより、相互の課題解決を図るとともに新たな価値を創出するため、まちづくりとの連携を図ります。

視点5の方向性

- かわとまちをつなぐ交通アクセスの機能充実に取り組みます。
- 高島平まちづくりと連携し、新たな価値創出に取り組みます。



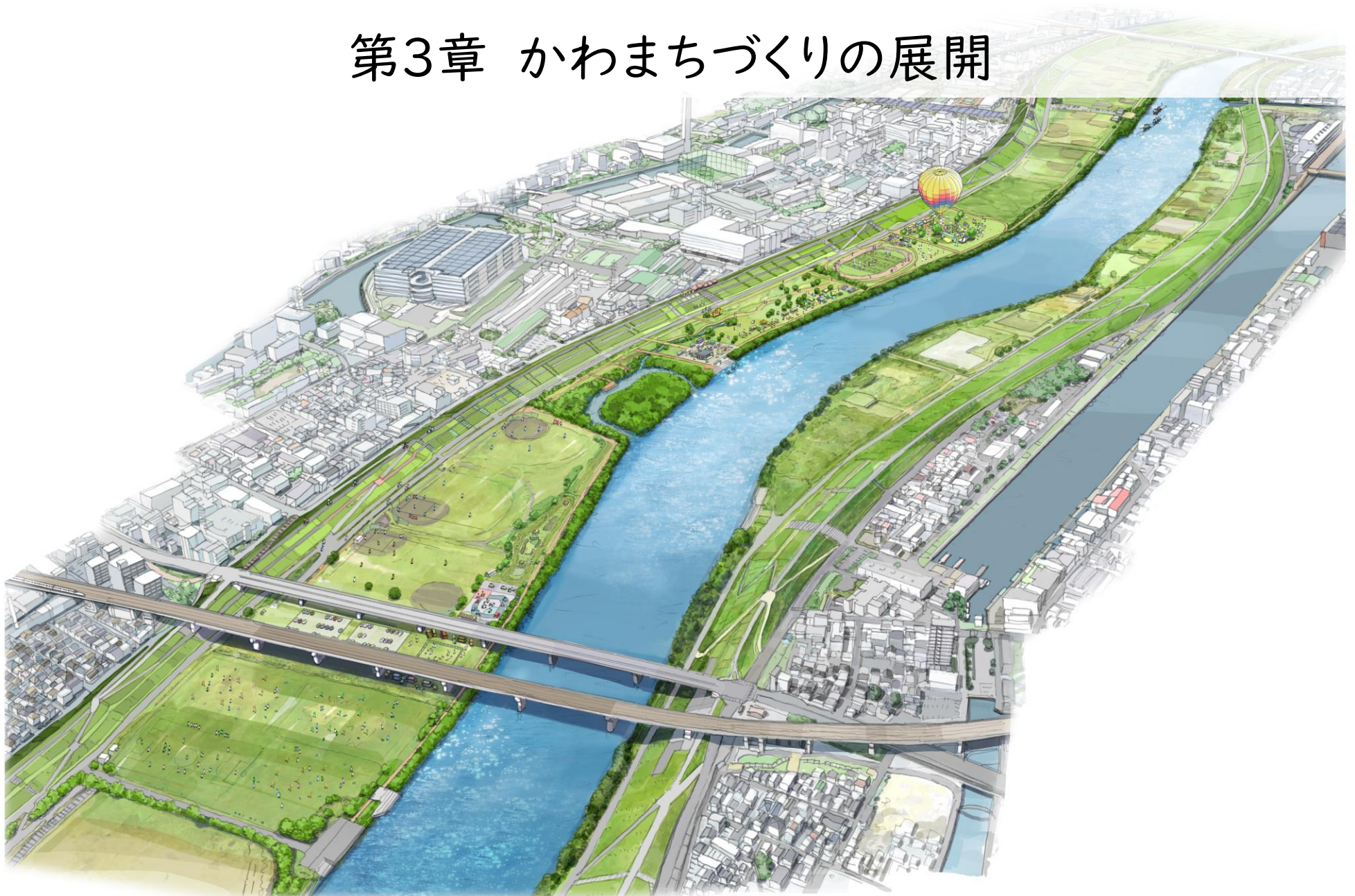
【かわまちづくりの方向性】



かわまちづくり推進の5つの視点と方向性

バー に ぎ わ い の バ ー ジ ョ ン ア ッ プ	①区のブランドとなる 充実したコンテンツの創出	○にぎわいの核となる拠点等整備 ○河川敷への新たな利用者誘致
	②既存機能の充実	○既存施設等利用者の利便性向上 ○みどり・水辺の利活用促進
	③公民連携の推進	○新たな民間活力の導入 ○関係指定管理者との連携促進及び機能向上
④防災機能の充実		⑤まちづくりとの連携
○国との連携による防災活用の推進 ○高台まちづくりによる水防災の取組促進		○まちをつなぐ交通アクセスの機能充実 ○高島平まちづくりとの連携・新たな価値創出

第3章 かわまちづくりの展開



第3章 かわまちづくりの展開



各ゾーンの現況

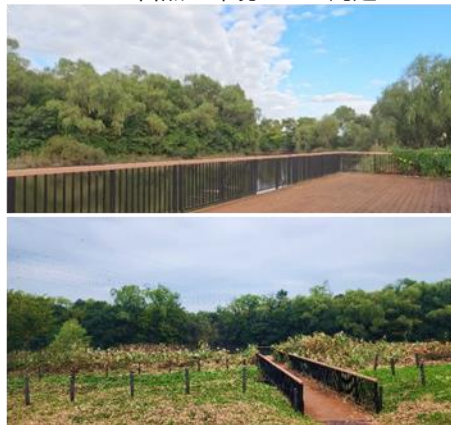
Ⅰ スポーツ・カルチャー発信ゾーン周辺



Ⅱ 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン周辺



Ⅲ 自然・環境ゾーン周辺



Ⅳ スポーツ・アクティビティゾーン周辺



第3章 かわまちづくりの展開（全体エリア）

めざすべきゾーニング像

自然豊かな空間を整え、各ゾーンの特徴を活かした取組を展開し、河川空間とまち空間の融合をめざします。

整備・取組の方向性

プロムナード等の整備やみどりの利活用を進めるとともに、モビリティ等導入により、連鎖的な水辺空間を創出します。



主な取組

- プロムナード・親水護岸の整備
- 環境、植生等と調和した景観づくり
- 災害時を想定した工作物等の導入・活用
- エリア内外アクセス改善に向けた機能導入

第3章 かわまちづくりの展開（Ⅰ スポーツ・カルチャー発信ゾーン）

めざすべきゾーニング像

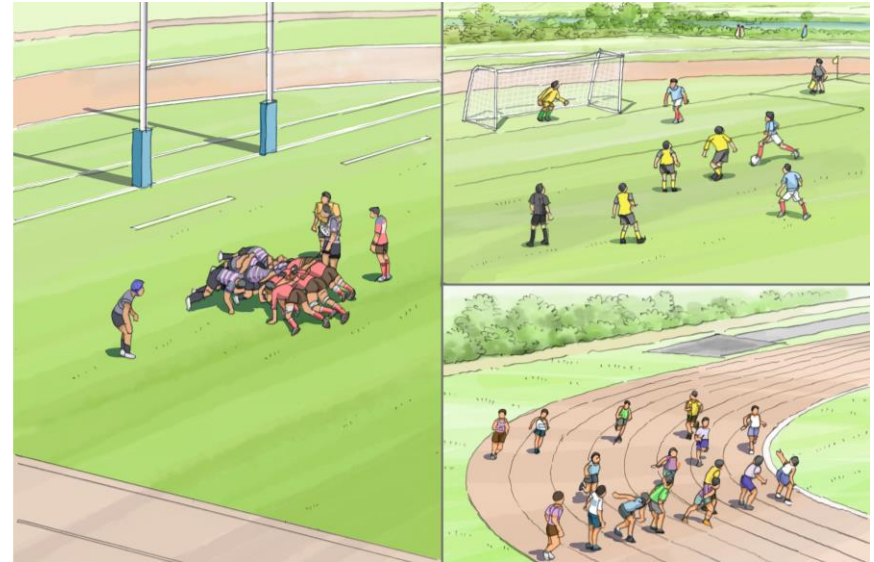
スポーツ機能の拡充や様々なイベントを開催することで、多くの人々が訪れ、活気あふれる場をめざします。



第3章 かわまちづくりの展開（Ⅰ スポーツ・カルチャー発信ゾーン）

整備・取組の方向性

荒川戸田橋陸上競技場の改修や自然を活かした広大なオープンスペースを設け、大規模イベント等の拠点として活用を図ります。



主な取組

- 広大な草地広場や戸田橋陸上競技場を活用し、大小様々なイベントを実施します。
- イベントや通常時でも子どもが楽しめる空間づくりを進めます。
- 荒川戸田橋陸上競技場を改修し、陸上やサッカー利用の充実を図るとともに、新たにラグビー機能を設けます。

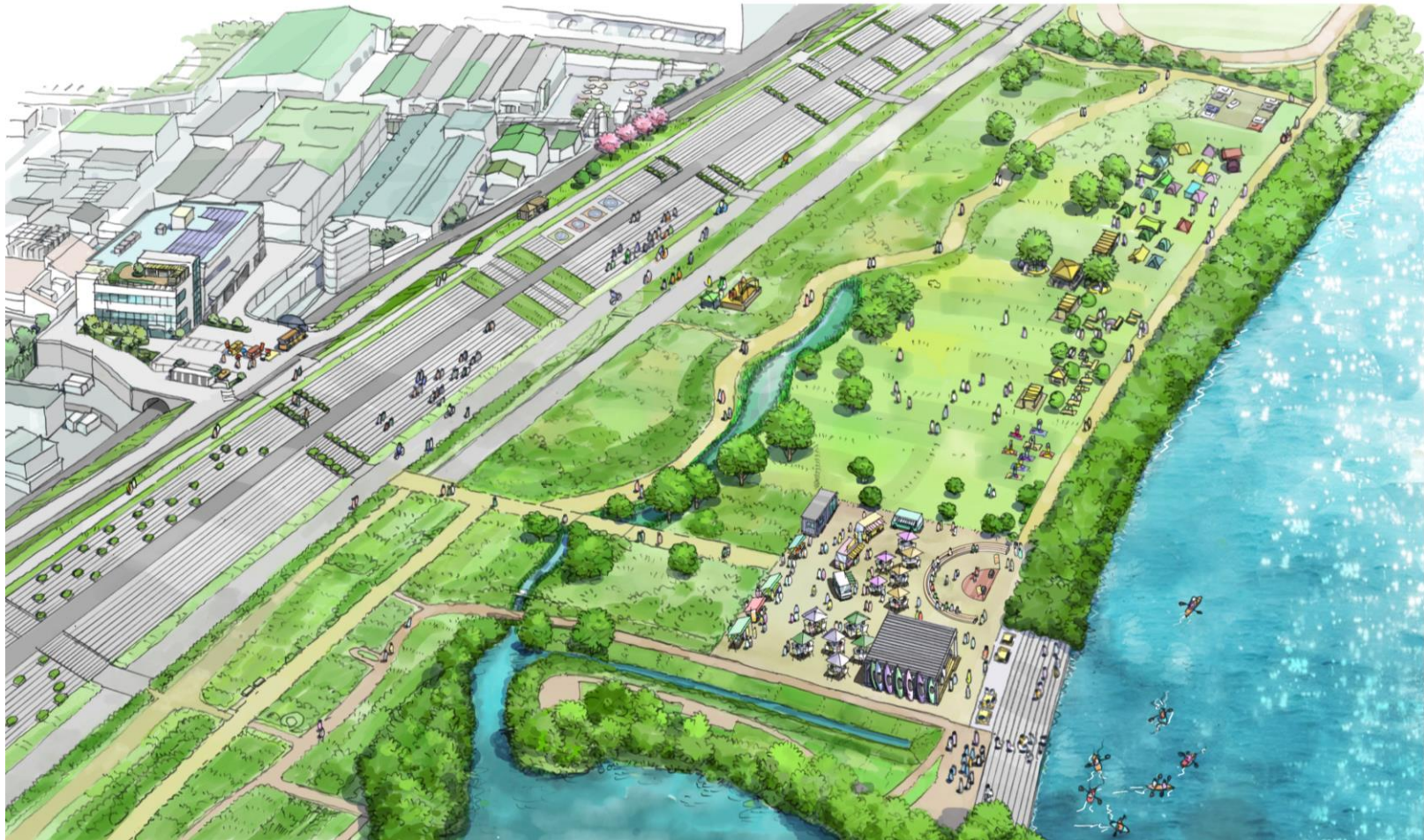
取組例



第3章 かわまちづくりの展開(Ⅱ 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン)

めざすべきゾーニング像

水辺空間の利活用や屋外体験等のレクリエーションにより、誰もが楽しめ、憩える場をめざします。



第3章 かわまちづくりの展開(Ⅱ 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン)

整備・取組の方向性

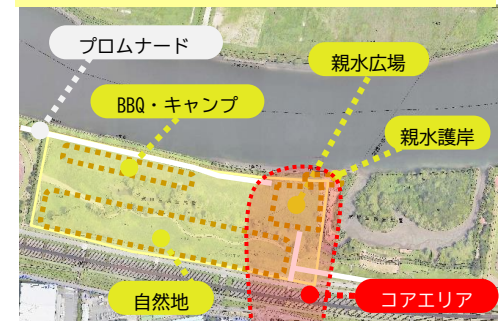
親水広場の整備やカフェ・レストラン機能を設けるとともに、リサイクルプラザや自然地の利活用を見据え、「コアエリア」としてにぎわいの拠点づくりを進めます。



主な取組

- 中規模自然地を活用し、みどりあふれる空間でのバーベキュー機能拡充やキャンプ等の屋外レクリエーションを導入します。
- 親水広場や親水護岸を整備し、水辺・水際利用を推進します。
- カフェ・レストラン等の飲食機能の他、ゾーン全体の充実に向け、電気・水道を設置するとともに、リサイクルプラザの利活用を検討します。

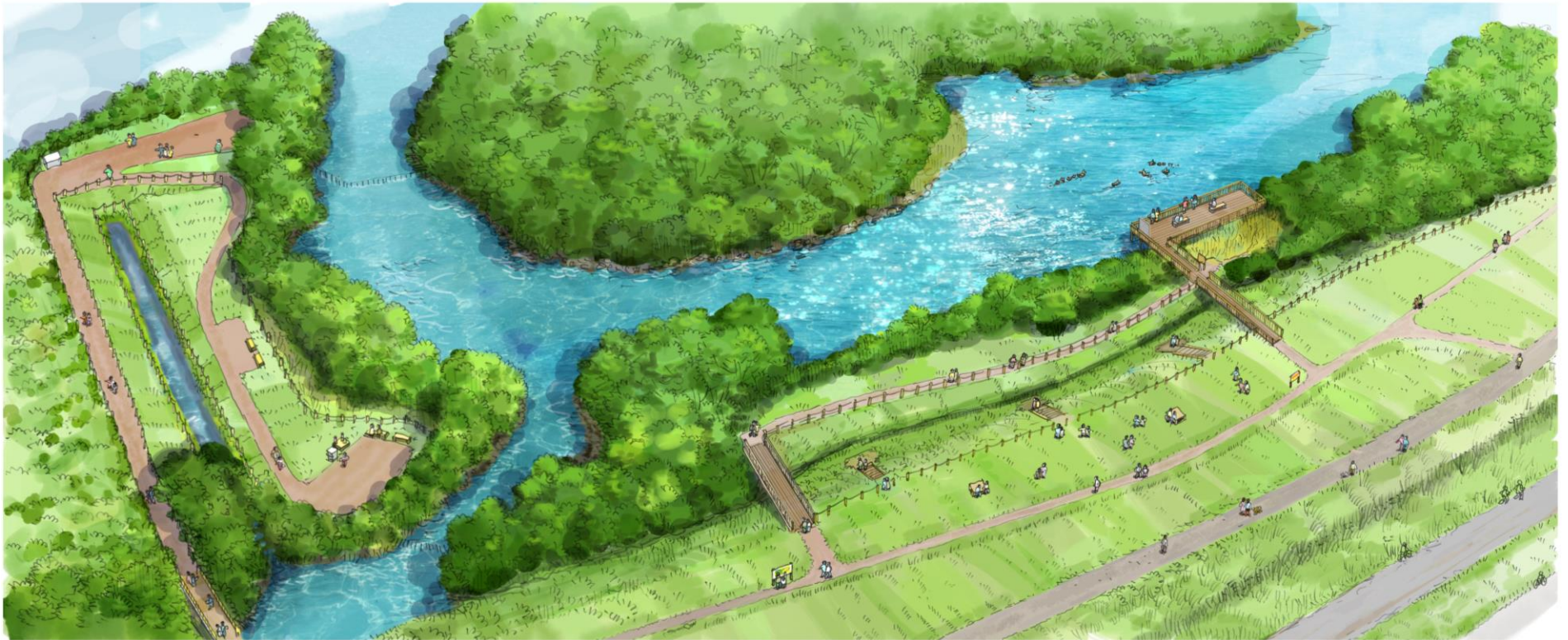
取組例



第3章 かわまちづくりの展開(Ⅲ 自然・環境ゾーン)

めざすべきゾーニング像

豊富な緑や河川環境、多様な生物の生息地である自然環境を整え、みどりあふれる場をめざします。



第3章 かわまちづくりの展開(Ⅲ 自然・環境ゾーン)

整備・取組の方向性

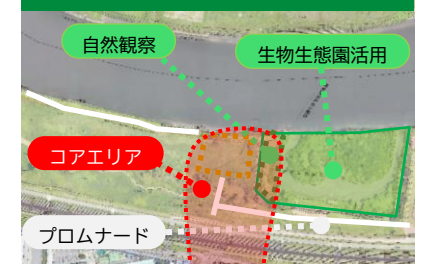
生物生態園のワンド等の地形を活かすとともに、自然環境の機能向上を図ることで、みどりの拠点となる空間づくりを進めます。



主な取組

- 生物生態園を活用し、自然に触れ合え学べる機会の充実を図ります。
- 多様な生物の保全やみどりの充実に向けて、適切な整備や維持管理を実施します。
- 河川敷の資源である水辺空間及び豊富なみどりの利活用に向けて、生物生態園のあり方を検討します。

取組例



第3章 かわまちづくりの展開(Ⅳ スポーツ・アクティビティゾーン)

めざすべきゾーニング像

新たなアクティビティの提供やスポーツ利用者等の利便性向上を図り、たくさんの人々でにぎわう場をめざします。



第3章 かわまちづくりの展開(Ⅳ スポーツ・アクティビティゾーン)

整備・取組の方向性

マウンテンバイクコース等の整備やキッチンカーの配置・トイレの充実など、かわまちづくりの玄関口となる駐車場の充実を図ります。



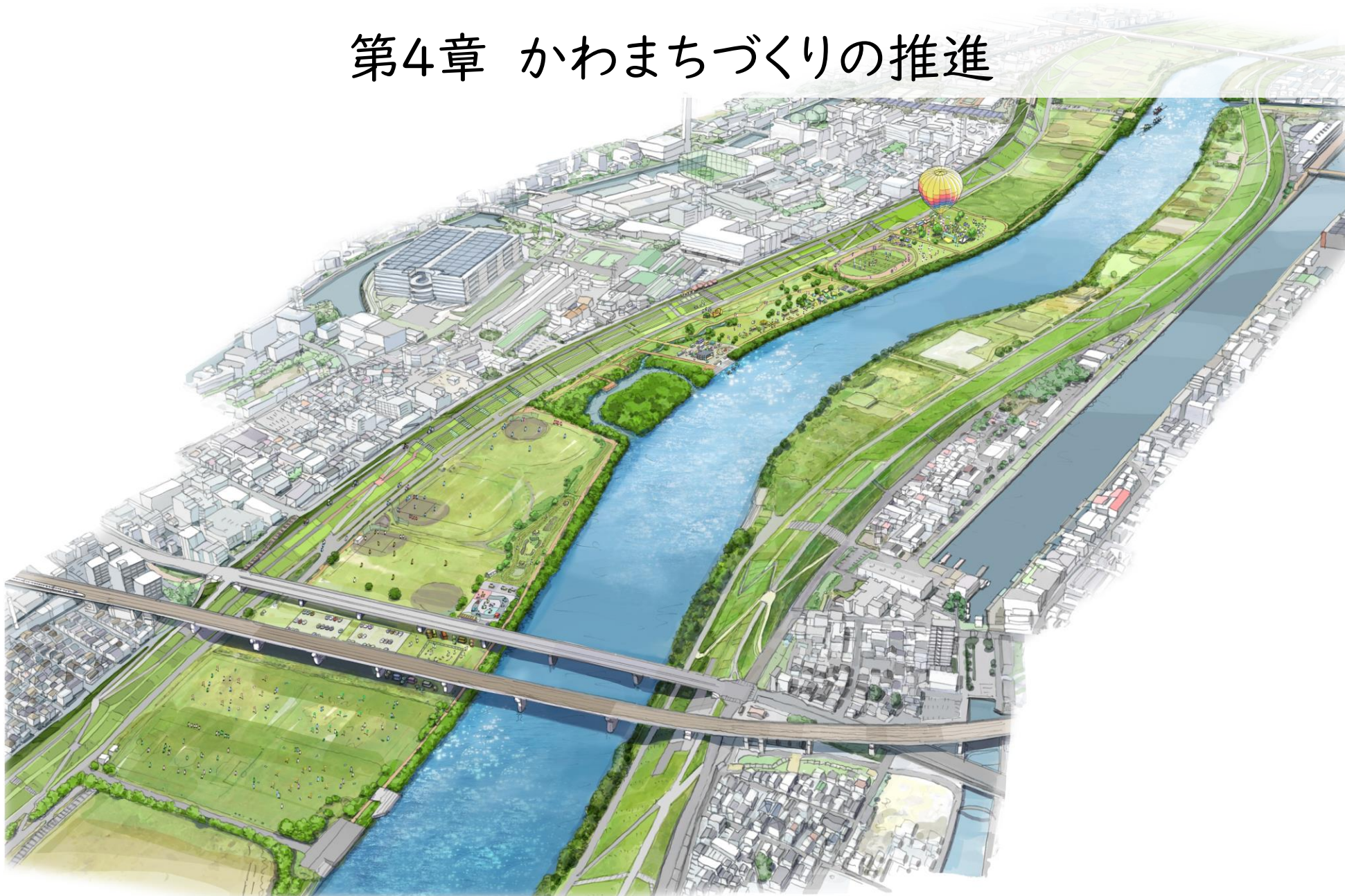
主な取組

- 来場者数確保に向けて、駐車場拡充やたくさんの人々が集える場を提供します。
- 多様なスポーツが実施できるフィールドを整備します。
- 駐車場からのアクセスを活かし、多世代が訪れることができるアクティビティ機能を設けます。

取組例



第4章 かわまちづくりの推進



第4章 かわまちづくりの推進

かわまちづくりの公民連携のあり方

サウンディング型市場調査の結果を踏まえた課題

- ①民間整備は多額の経費を初期投資に要すことから収益還元は難しく、全体の事業規模及び区の投資可能な範囲等、早い段階での開示が求められています。
➡一定程度区の初期投資(整備)が必要
- ②民間事業者の参入は、人が来る環境が形成されるかが鍵であり、にぎわいを創出しやすい場所の集客、多目的利用の視点など、ソフト面の取組が重要となります。
➡集客に向けたデータ取得やかわまちづくりの機運醸成を図ることが必要
- ③民間の資金調達のみならず参入しやすい事業手法として、DB方式や指定管理者制度等が望ましく、関連する指定管理者施設と一体で管理することも効率的となります。
➡関連する指定管理者との連携や協議が必要

取組方針

- ①にぎわい拠点づくり
 - 事業実施及び事業者参入に向けて、親水広場周辺の「コアエリア」から整備を進めます。
 - 生物生態園等の現況や荒川将来像計画の土地利用区分を踏まえた内容とします。
- ②にぎわい機能の拡充
 - 利用者ニーズや事業運営の課題等の整理、かわまちづくりの機運醸成を図るため、トライアル・サウンディングを実施します。
 - トライアル・サウンディングの結果や現在の荒川河川敷の状況等も踏まえ、にぎわい創出に資する新たなイベントや既存機能の拡充に取り組みます。
- ③事業手法等検討及び事業者公募実施
 - 国と連携し、水辺の利活用に向けてプロムナード・親水護岸の整備を進めます。
 - 河川敷の関連指定管理者の現状を踏まえ、事業連携や効果的な運営をめざします。

取組方針

取組方針① にぎわい 拠点づくり

- 【主な取組】
- 親水広場・園路等コアエリアの整備・運営
 - 生物生態園等、自然の有効活用
 - 車両・トイレ等工作物の導入 など

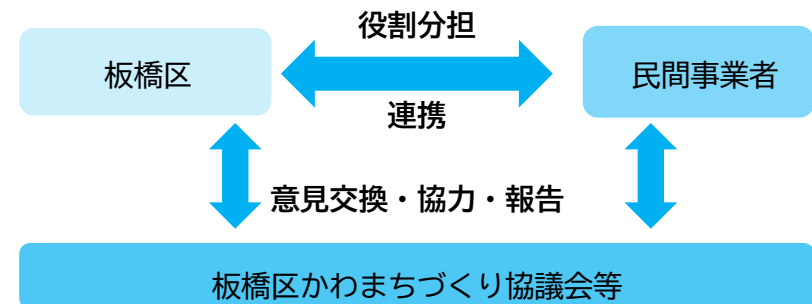
取組方針② にぎわい 機能の拡充

- 【主な取組】
- トライアル・サウンディングの実施
 - 新たなイベント・機能拡充に向けた取組
 - 荒川戸田橋陸上競技場の改修 など

取組方針③ 関係機関 との連携

- 【主な取組】
- プロムナード・親水護岸の整備
 - 関係指定管理者との連携 など

共創空間構築に向けた推進体制



第4章 かわまちづくりの推進

かわまちづくりの整備・取組のスケジュール及び事業量

取組方針	整備・取組内容	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13以降
①にぎわい 拠点づくり	コアエリアの整備・運営	調査・基本設計	事業者公募	詳細設計・整備	管理・運営		
	車両・トイレ等工作物の導入	準備	製作	活用			
②にぎわい 機能拡充	ソフト事業充実	トライアル・サウンディング	新イベント 機能拡充				
	荒川戸田橋陸上競技場の改修	整備実施					
③関係機関 との連携	プロムナード等の整備	ゾーンごとに整備実施（国）					
	関連指定管理者の指定期間	2年目	3年目	4年目	5年目再選定	再1年目	再2年目

整備・取組内容

①にぎわい拠点づくり

- 拠点となる水辺のにぎわい・アウトドアゾーンの親水広場や園路を中心としたコアエリアの整備に着手するとともに、隣接する生物生態園及び中規模自然地の有効活用を進めます。
- コアエリアの整備・運営に向けては、効果的な事業者公募を実施します。
- 整備と併せて、集客に向けて車両やトイレをはじめとした工作物を導入します。

②にぎわい機能拡充

- 令和8年度には、民間事業者主体でトライアル・サウンディングを実施します。
- トライアル・サウンディングの実施状況を踏まえ、にぎわい拠点づくりと併せて、新たなイベントの実施や既存機能の拡充に区主体で取り組みます。
- 荒川戸田橋陸上競技場を改修し、新たにラグビー機能を設けます。

③関係機関との連携

- プロムナード等の整備について、河川管理上必要な整備は、国にて実施し、その他機能向上部分は区の負担により実施します。
- 関連指定管理者の指定期間も考慮し、効果的な事業運営に取り組みます。

第4章 かわまちづくりの推進

かわまちづくりの目標値

かわまちづくりの目標値は、第2期整備エリアの草地広場周辺から戸田橋（荒川戸田橋緑地サッカー場含む）の区間に1時間以上留まっている人々を「河川敷の滞在人口」と定義し、最終成果指標として設定します。

目標年限については、区の総合計画である「板橋区基本計画2035」の計画期間も考慮し、令和17年度とします。また、今後の整備等の進捗や事業者公募実施も見据え、中間となる令和12年度にも目標値を定めます。

かわまちづくりの成果指標

河川敷の滞在人口

令和6年度
961,000人

令和12年度
991,000人

令和17年度
1,060,000人

うち祝休日

令和6年度
276,000人

令和12年度
291,000人

令和17年度
326,000人

第2期整備エリアの滞在人口（草地広場周辺から戸田橋（サッカー場含む））区間

	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	平均
平日	772,000	780,000	710,000	720,000	722,000	685,000	731,500
休日	279,000	231,000	237,000	222,000	276,000	276,000	253,500
合計	1,051,000	1,011,000	947,000	942,000	998,000	961,000	985,000

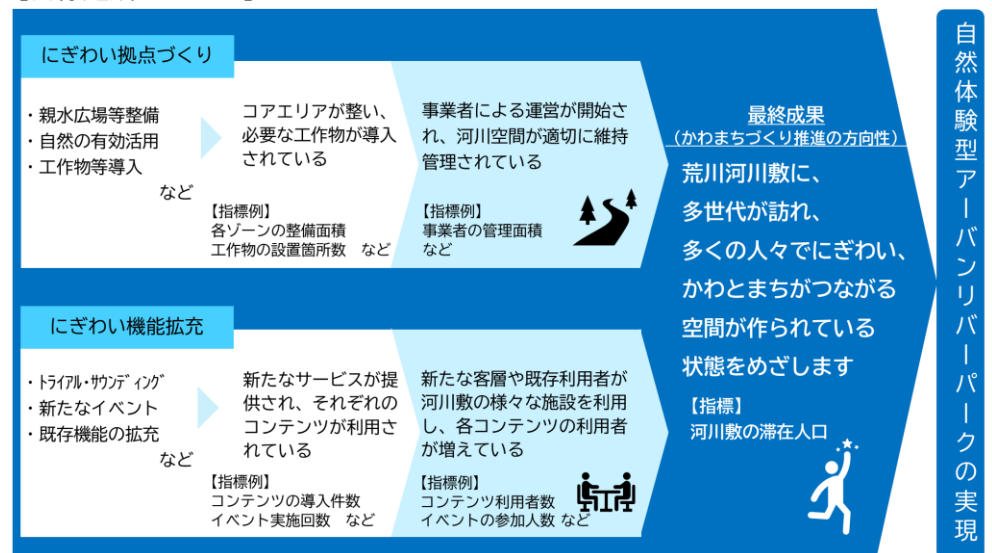
データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
調査に用いたデータはau（KDDI）スマートフォンの位置情報ビッグデータ。
（auスマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報および属性（性別・年齢層）情報データ）
・データには20歳未満、およびインバウンド観光利用者のデータは含まれません。
・分析結果の数値は全自交推計値（サンプルを、国勢調査の市町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値）となります。
・平均を除く表中の数値は1,000人未満を四捨五入にて表記しています。

○滞在人口の合計については、令和17年度までに令和元年度を越える約10万人（約10%）増の1,060,000人をめざします。

○特に、休日の滞在人口については、今後のにぎわい機能の充実も踏まえ、約5万人（1週間あたり約1,000人程度）増をめざします。

○中間年次にあたる令和12年度は、コアエリアのみ事業者による本格運営直後であることも踏まえ、合計で約3万人（1週間あたり約600人程度）、祝休日で約15,000人（1週間あたり約300人程度）の増加を目標値とします。

【目標達成イメージ】



パースが1枚入ります。

裏表紙